

第1回中野駅新北口駅前エリアアリーナ整備官民連携協議会  
議事要旨

【開催概要】

日時：平成29年12月19日（火） 午後7時から9時まで

会場：コングレスクエア中野 ルーム1

委員等出席状況：出席数21名、欠席数1名

出席委員等

本田委員、福田（明）委員、川中子氏（福田委員陪席）、小高氏（山地委員代理）、大井氏（小高代理委員陪席）、原田委員、村木委員、鈴木委員、江島氏（松下委員代理）、田山委員、麻沼委員、溝口委員、大月委員、高橋（一）氏（落合委員代理）、高橋（俊）委員、桂田委員、小笠原委員、福田（裕）委員、悴田スポーツ庁参事官補佐（オブザーバー）、山崎東京都生活文化局課長（オブザーバー）、織田オリンピック・パラリンピック準備局課長（オブザーバー）

欠席委員等

村林委員

【議事要旨】

1. 開会

午後7時に開会した。

2. 中野区長あいさつ

中野区長からあいさつがあった。

3. 中野駅新北口駅前エリアアリーナ整備官民連携協議会について

（1）協議会の概要

事務局から、資料1、資料2により協議会の概要説明があった。

（2）委員自己紹介

委員等の自己紹介を行った。

（3）座長・副座長の就任

協議会設置要領第3条2項に基づき、委員の互選により、座長として原田委

員を選出した。また同要領第3条3項に基づき、座長の指名により、副座長として村木委員を選出した。

(4) 協議会の運営について

資料3のとおり協議会の運営を行うことが了承された。

4. 議事

(1) 中野駅新北口駅前エリア（区役所・サンプラザ地区）再整備事業の概要  
事務局及び川中子氏（福田委員陪席）から、資料4により再整備事業の概要説明があった。

(2) 検討テーマ「中野駅新北口駅前エリアの再整備モデルを踏まえたアリーナ整備、運営のあり方」

事務局から、資料5により検討テーマの説明があった。引き続き、下記の意見交換が行われた。

**(桂田委員)**

他のアリーナやスタジアムの検討と比べ、中野のアリーナに関しては、コンセプトとして世界最先端をうたっており、アリーナで最大限収益化する姿をハード側からメッセージを出してもよいのではないか。区民利用も大事だが、見るスポーツ拠点、世界に響くようなイベントをするぐらいの拠点として、高質かつ高級アリーナというコンセプトを目指して、「この地にアリーナあり」として最大限収益化の方が良いと思う。ハードの観点やまちづくりの観点から見たアリーナとして、どのようなコンテンツがはまるか議論をする方が良いと思う。

**(原田座長)**

業者がアリーナを選ぶのではなく、アリーナが業者を選ぶという強気な発言だが、それもひとつの視点である。

**(鈴木委員)**

Bリーグは年間60試合でホーム&アウェイ形式をとっている。ホームで30試合開催することとなり、ホームチームが主催し、すべて興行権を持っている形である。中野のアリーナにBリーグのチームが入るとすると、年間30試合を最大で使える。今後、アリーナの収益化を検討していく際には、今の体育館という施設では単価に限界がある。例えばVIPルームを備えて

いる体育館がない状況で、これからのアリーナにはVIPルームが必須になってくるし、デジタルサイネージ等の広告が設置されると収入もあがってくる。ネーミングライツもアリーナ単体のネーミングライツではなく、VIPルームごとや入口ごとに命名し、付加価値が付くような検討が必要かと思う。

#### (原田座長)

海外のアリーナでも、ラグジュアリーシートやスカイボックスなど特別観覧席の販売が非常に大きな収益になっている。VIPラウンジがないと、稼ぐスタイルにはならない。1枚1枚チケットを売っても、時間のかかる仕事になる。

#### (田山委員)

1万人規模のコンサート会場の現状に関して、改修により代々木体育館が閉鎖しているものの、武道館と埼玉スーパーアリーナ、横浜アリーナ、武蔵野の森アリーナ、それに加えて有明アリーナが今後完成する。また、2020年の春を目指して、ぴあがみなとみらいに1万人の音楽専用施設を作り、同じくみなとみらい地区にケン・コーポレーションが2万人のコンサート会場を作る。足りないと言われているものの、今後、首都圏に収容人数の多い施設ができる中で、中野という利点を生かすことを考えなければいけない。今後の人口推移を勘案すると、着席スタイルがメインになってくるのではないかと思う。1万人規模のアリーナといっても、立ち見ではなく着席にすると、8000人取れるかどうかであり、その点をどのように考えるかが重要になる。

通常の体育館施設だと360度客席があり、コンサートの際には片側3分の1から4分の1客席をつぶす形になるが、ステージを常設にする場合、最初からステージになる部分は確保されている。短時間で設営が可能となり、アリーナの過剰供給の競争から逃れて、1番手の選択肢になるのではないかと思う。照明設備は興行主が持ち込む場合が多く、照明設備が常設の場合、会場費用がコスト高になる上に常設の照明設備を取り外すことになってしまうため、好ましくない。

コスト高の会場、収容人数が足りない中途半端な会場にならないよう、本協議会で様々な話をしたいと考えている。

#### (原田座長)

ポジショニングの問題は非常に大きい。10年経つと、今のテクノロジーは陳腐化してしまう。AIが照明の仕事を奪ってしまう可能性もある。ぶれないコンセプト、しっかりしたものを作らないといけない。

### (福田明弘委員)

我々が検討してきた結果、音楽が最も収益が上がりやすいと考えているが、音楽だけでなく、スポーツもミックスしながら稼働率を上げることも非常に重要である。音楽、スポーツ、コンベンションの3つがベストミックスできるような施設とするため専門的な立場からの意見を伺いたい。

### (小笠原委員)

日本のスポーツやアートは、欧米に比べると収益性が低い。海外のスポーツは、VIPルームで大体8割稼いでいる計算もある。世界的な興業を呼んでくる場所として、検討していくのも良いと思う。アジア圏の富裕層を中心に“世界の中の中野サンプラザ”として勝負の世界を広げて良いと思う。少子化の話もあり、インバウンド中心に変わっていく中で求められる要素を検討する必要がある。世界的な興業を呼込む諸要件を教えてください。

### (高橋俊憲委員)

中野は都心から近くポテンシャルが高いため、インバウンドの客が東京を楽しみながら試合も観戦するという期待値も高い。中野の楽しさ、ブランドが、世界で認知されるような仕組み、情報発信が重要である。その中で、興行主が中野でやりたい、となるのが良い。例えば、埼玉スタジアムは芝も良いし、設備もサッカーに向けた設備であり、各国の代表監督がそこでやりたいと言っており、ブランドが出来ている。必要要件、機能はたくさんあるが、ブランドをどう作るかが重要だと思う。スポーツだけでなく、コンテンツを中野発で生み出していくことが重要である。アーバン系のスポーツはファッションや音楽など周辺の産業に波及効果があるが、中野のサブカルチャーとどれだけ親和性があるのか検証する必要がある。ある企業では、eスポーツのスタジアムを中野に作りたいという動きもある。若者の多い中野で、アリーナをどう運営するかが、1つのブランド作りのポイントである。ブランド視点でのコンテンツのあり方も、ぜひ議論してみたい。

### (原田座長)

スポーツ自体の進化も頭に入れながら、ブランド化を進めていただきたい。ホテルも、ビジネスホテルでは、富裕層があまりよって来ない。

### (高橋一朗委員)

あえてアリーナを選んだのだから、うまくバランスをとれるよう念入りに作っていくことが、将来の区民に負債を残さない上で重要かと思う。他の施設で

は、平日は潤っているようには見えない。そういったことが起きないためには、周辺地区へ回遊する仕組みを作ることが重要である。大きな施設ができ、地域の商店街が閑散としてしまった事例が数多くあるため、うまくバランスを取りながら地元との相乗効果があるようにしてほしい。

#### (江島委員)

V I Pルームや入場ゲートのネーミングライツの話もあったが、スポーツは単価が安い。スポーツは遠い席になると、1000円、1500円が席の料金になる。そこが増えても正直収入としては大きく増えない。V I Pルームとかネーミングライツとか、スポーツの興業以外で稼がなければいけない。例えば、ロビーでのグッズ売りやスポンサーにブースを出してもらい、試合の休憩時間にどれだけ楽しんでもらい、どれだけお金を落としてもらえるかというのが肝になる。付帯施設でどれだけ稼げる場所なのか気になる。

#### (原田座長)

プロムナード的なところが、火が使えるとか煙の排気装置があるかとか、そういうことも考えなければいけない。音楽イベントでもグッズの販売はすごい。その辺も考慮していく必要がある。

#### (溝口委員)

中野は区としては財政豊かな区ではない。そういう区が大事業をどうやるのか、興味津々である。どうやってお金を工面するのか、区民としては心配している。財政的なものは裏付けがないと、いくら考えても前に進まないだろうという心配をしている。

#### (大月委員)

誰が出資をして、誰がリスクを負って、誰が恩恵を受けるのか、アリーナの所有と運営主体が気になる。駅近・まちなかであり、贅沢なロケーションの中にある。1万人近くの客が短時間の間に来て、帰っていく。回遊性という点ではサンモールやブロードウェイのある旧市街への回遊性が、現状だと難しいと感じている。南北方向は比較的的回遊性があるが、東西へのアクセスがないとせっかく中野に来た客が中野を楽しめない。こうした障害に目を向けるべきと、地元にいる人間として感じている。

#### (原田座長)

アメリカだと、あえて中心街から遠くに作って、そこに新しいプロムナード

を作るが、今回はど真ん中に作るので、そうした悩みも解消しなければならない。

#### **(桂田委員)**

アリーナの建設や設え、事業スキームとかで、議論するに際して動かさない条件があるのか。アリーナ整備構想や条件があれば、教えてほしい。

#### **(事務局：石井副参事)**

区役所・サンプラザ再整備実施方針では、最終的に最大収容1万人を目標とし、大規模の集客交流施設を作っていくという考えを示している。また、オフィス、ホテル、住宅、商業等の複合機能を誘導することを目標として、全体の事業を成立させたいと考えている。事業手法は市街地再開発事業で進めたいと考えており、区役所の土地と建物は区の持ち物、中野サンプラザは中野区が100%出資している株式会社が所有している。この2つの資産を活用して資金を調達し、整備していく。その中でアリーナの所有を区が所有するのか、民間が所有するのかは今後の議論になる。

#### **(福田裕之委員)**

アリーナの利用条件等について、利用時間、利用要件、料金を含めて運営する民間事業者にかかせるのがベストであるが、公設民営の事業が多い。公設となると施設の整備に税金が投入され、公益性の観点から、運営する民間業者の自由な運営に制約が出てくる可能性がある。区民にどのように還元していく必要があって、民間の運営に影響を与えるのか、バランス感覚を持つていく必要がある。

#### **(悴田参事官補佐)**

スポーツ庁でスタジアム・アリーナ改革を進めている中で、1番問題になっているのはビジネス感覚であり、公設民営という形が主流であり、なかなか民間側の声が反映されない問題点がある。

色々なマーケットの需要や民間側の肌感覚を持ち、それを取り入れていくことで運営を見据えた議論になると思う。コンベンションの議論が抜けている点が懸念される。実際、コンベンションとなった場合に、専門家の意見を早めに巻き込んでいく必要がある。

#### **(村木副座長)**

中野の「山手線側の外側」というデメリットを克服する付加を検討していく

ためには、アリーナで何を売っていくのかが重要である。今の20～30代はプライベートの消費が少なく、徐々に消費をするようになった場合でも、アリーナ等に来て、お金を使って何か楽しむということを本当にする世代ばかりになるとも限らないのではないか。そうした市況をどのように見ていくのかが重要である。中野は周辺が密集なので、このような開発で都市災害が起きた時に、地域の課題をどうやって受け止めるか、中野の弱みを検討の中に入れていくことが必要である。

**(原田座長)**

これにて議論を終了したいと思う。次回の協議会ではさらに議論を深めていくために、皆様からのご提案や関連情報などのご提供いただきたいと思う。

5. その他

事務局から、次回日程の案内があった。

6. 閉会

午後9時に閉会した。